

伊万里市人口ビジョン



令和6年1月

iMAR!

目次

1	はじめに	1
(1)	人口ビジョンの位置づけ	1
(2)	人口ビジョンの改訂	1
2	人口の現状分析	2
(1)	人口の動向分析	2
01	総人口の推移	2
02	年齢3区分別人口構成の推移及び人口ピラミッド	2
03	出生・死亡、転入・転出数の推移	3
04	総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響	4
05	男女及び年齢階層別の人口移動	5
06	地域別の人口移動	6
07	昼間人口	7
08	外国人の人口	8
09	結婚	8
10	出産	9
(2)	産業の動向分析	10
01	産業構造	10
02	労働力	11
3	人口の将来展望	12
(1)	将来人口の推計	12
01	推計方法の概要	12
02	将来人口推計の概要	13
03	将来人口推計の分析	14
(2)	将来の展望と方向性	15
01	人口減少・少子化問題に取り組む意義	15
02	伊万里市が目指すべき方向性	15

1 はじめに

(1) 人口ビジョンの位置づけ

まち・ひと・しごと創生法第 10 条に基づく、区市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「地方版総合戦略」という。）の策定については、各地方公共団体における人口の現状と将来の展望を示す「地方人口ビジョン」を踏まえた上で、それぞれの地域の実情に応じながら、戦略の基本目標を設定することとなっています。

伊万里市人口ビジョンは、過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析するとともに、将来人口の推計と分析を行うことで、地方版総合戦略のみならず、伊万里市総合計画における基本構想の実現に向け、効果的な施策を企画・立案する上で、重要な基礎となるものです。

(2) 人口ビジョンの改訂

平成 27 年（2015 年）10 月策定の人口ビジョン（以下「前人口ビジョン」という。）は、平成 22 年（2010 年）国勢調査人口を基準人口とし、平成 25 年に国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来人口推計（以下「社人研推計」という。）等の既存の将来人口推計を踏まえつつ、策定時の住民基本台帳人口の傾向を反映して推計を行ったものであり、本市の総人口の将来展望として 2020 年に 55,080 人、2025 年に 53,830 人、2060 年に 46,000 人と見込んでいました。

しかしながら、令和 2 年（2020 年）の国勢調査の結果（52,629 人）から推計すると、2025 年は 50,166 人、2060 年は 38,000 人となり、想定より人口減少が進行しています。

このように、前人口ビジョンの策定当時とは大きく変わってきている状況を踏まえ、最新の国勢調査の結果や住民基本台帳などをもとに、伊万里市人口ビジョンを改訂することとしました。

なお、国立社会保障・人口問題研究所が令和 5 年 12 月 22 日に公表した「日本の地域別将来推計人口」は今回の改訂には反映しておりません。

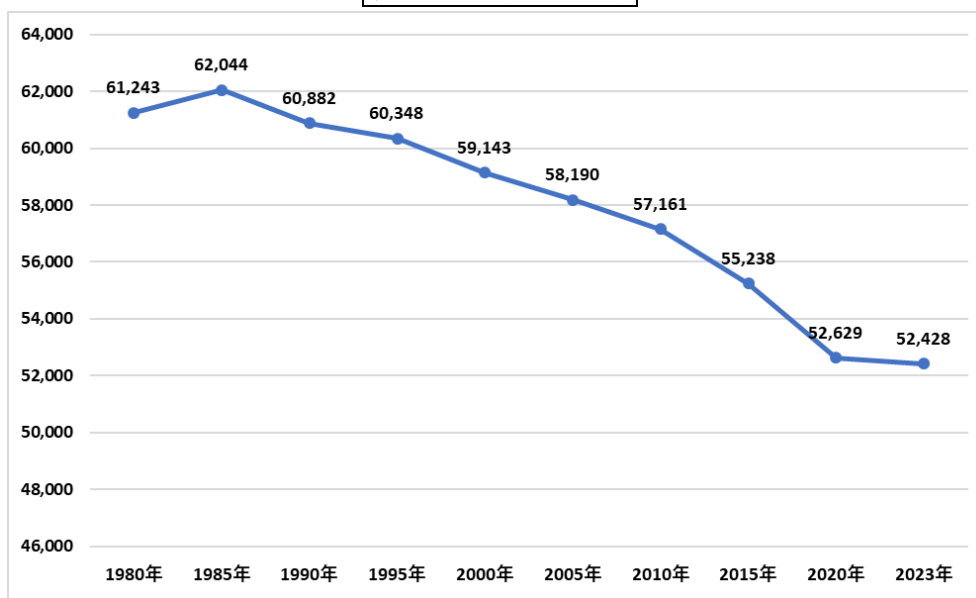
2 人口の現状分析

(1) 人口の動向分析

01 総人口の推移

「伊万里市の人口は減少傾向」

伊万里市人口の推移

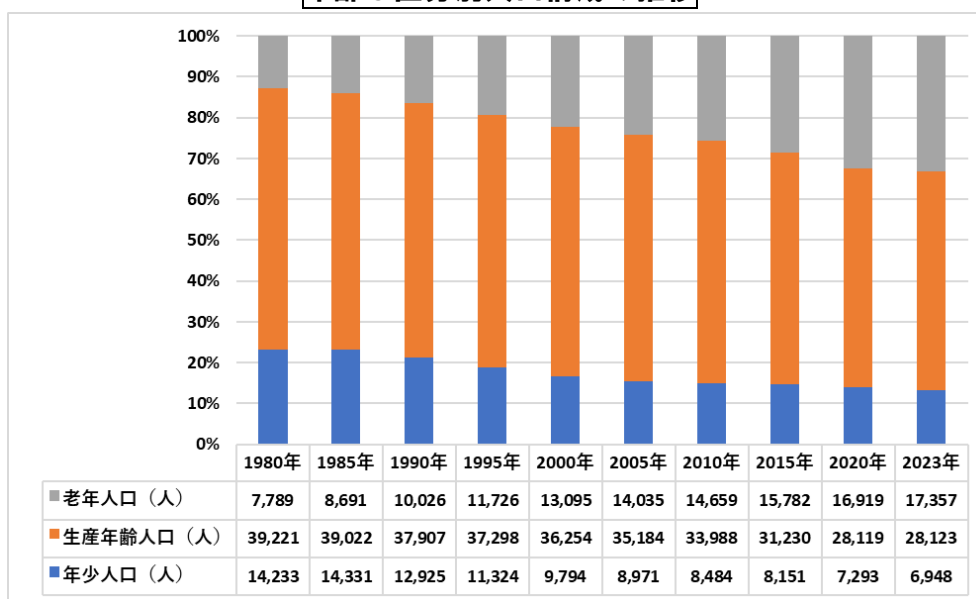


出典：RESAS 地域経済分析システム（※2023年は住民基本台帳）

02 年齢3区分別人口構成の推移及び人口ピラミッド

「少子高齢化が進行」

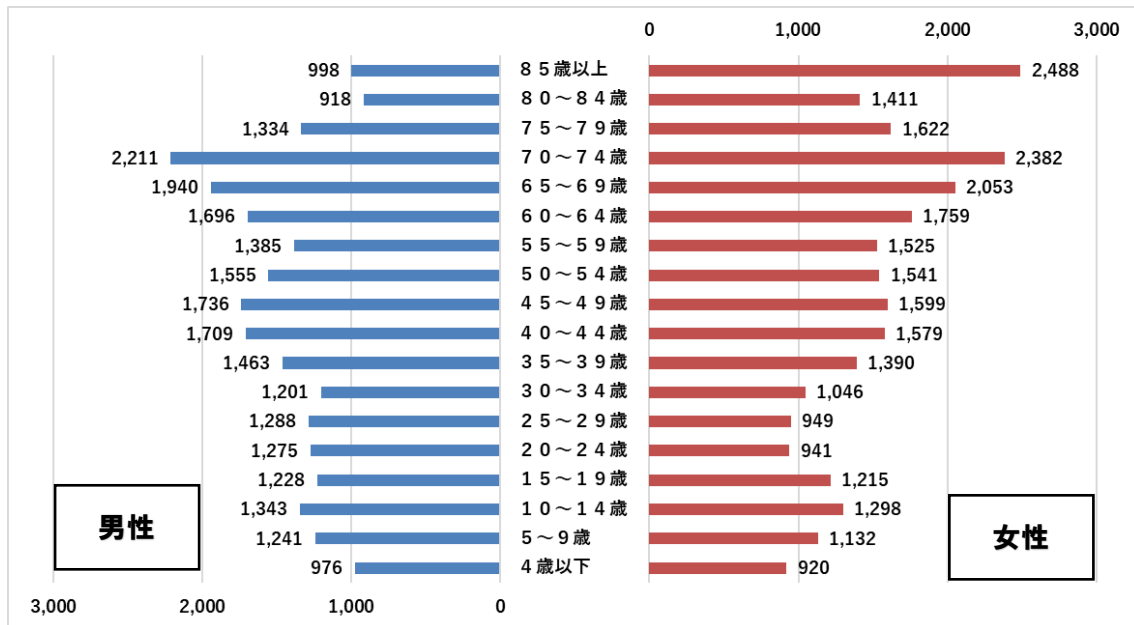
年齢3区分別人口構成の推移



出典：RESAS 地域経済分析システム

「若い世代の女性が少ない」

2023.6.1 人口ピラミッド

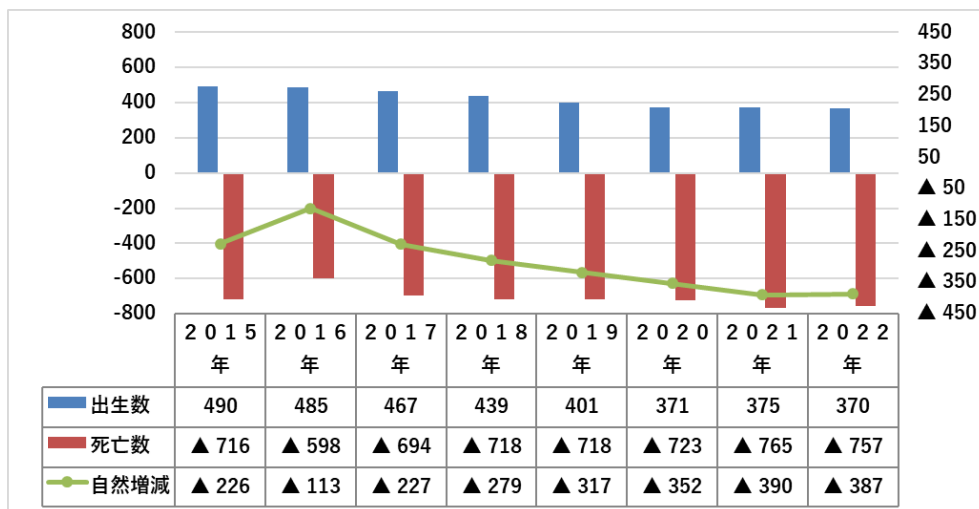


出典：統計伊万里

03 出生・死亡、転入・転出数の推移

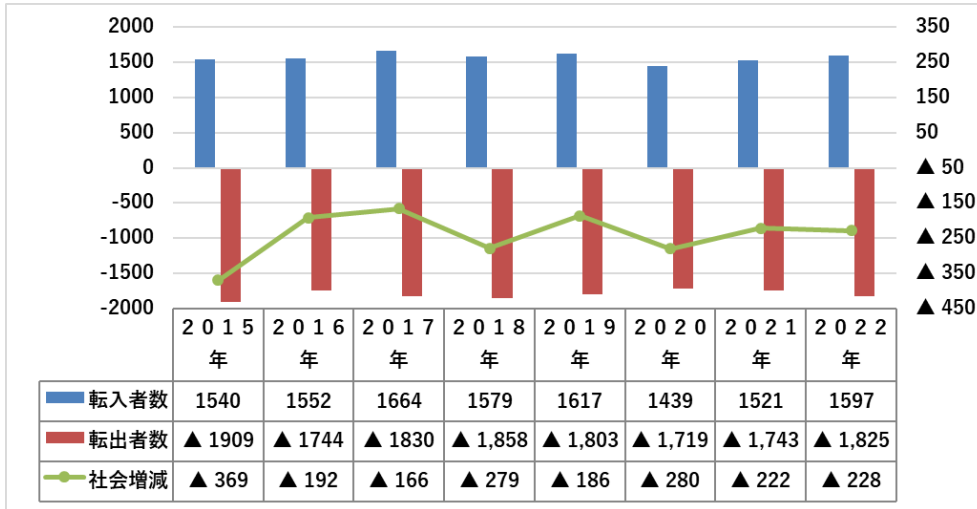
「自然減・社会減が進行傾向」

自然増減の推移



出典：統計伊万里

社会増減の推移

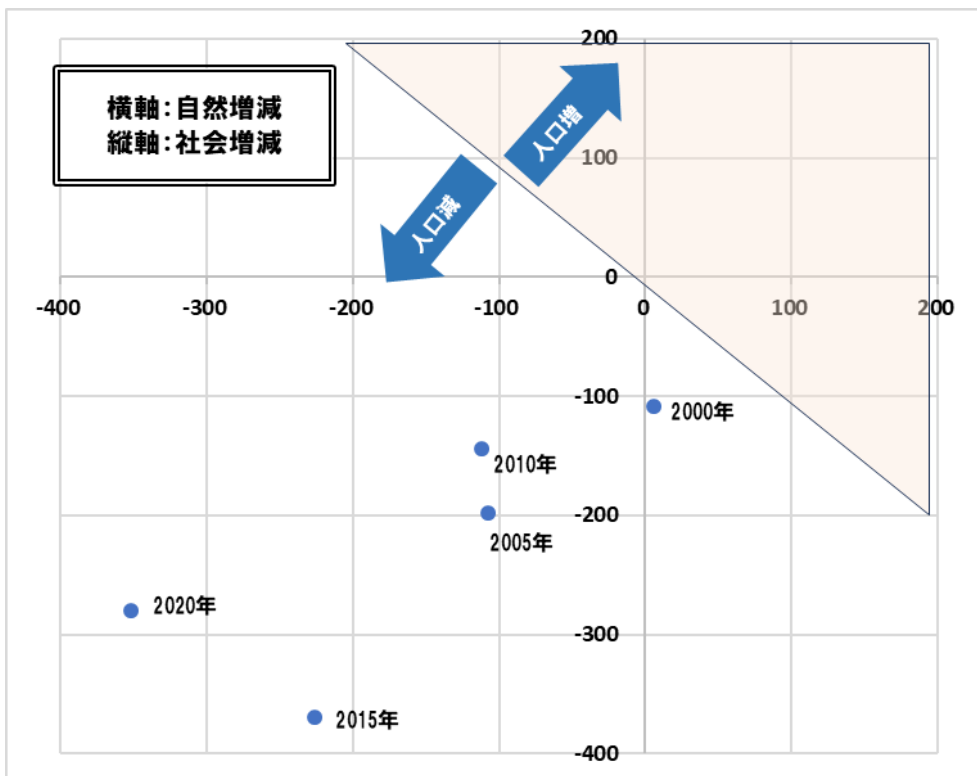


出典：統計伊万里

04 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響

「自然減・社会減が年々進行傾向」

総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響

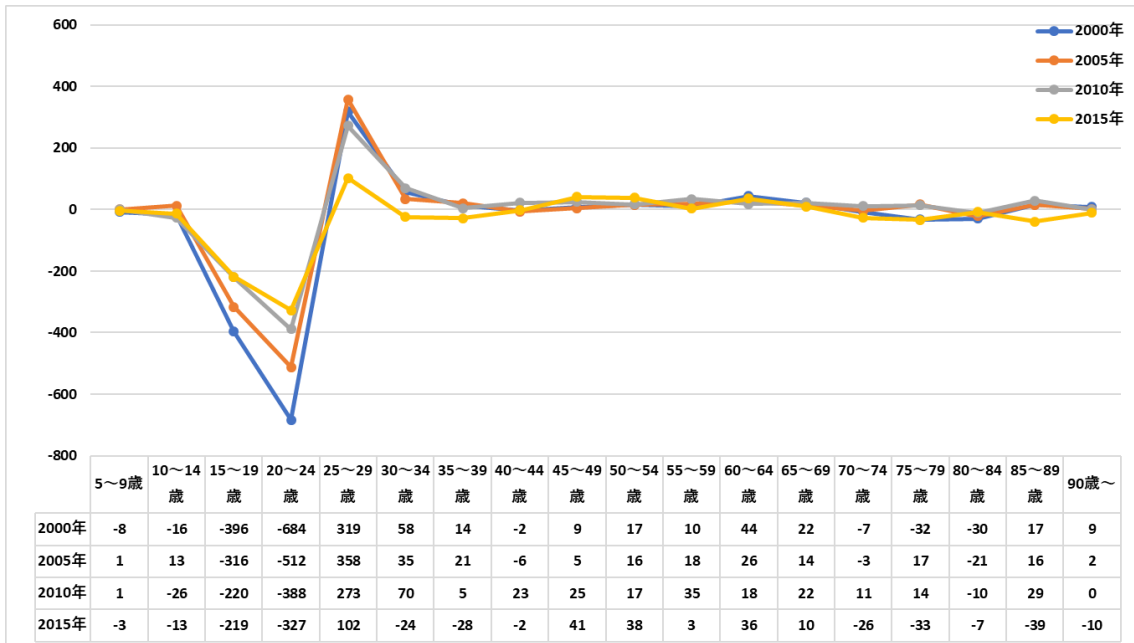


出典：統計伊万里

05 男女及び年齢階層別の人口移動

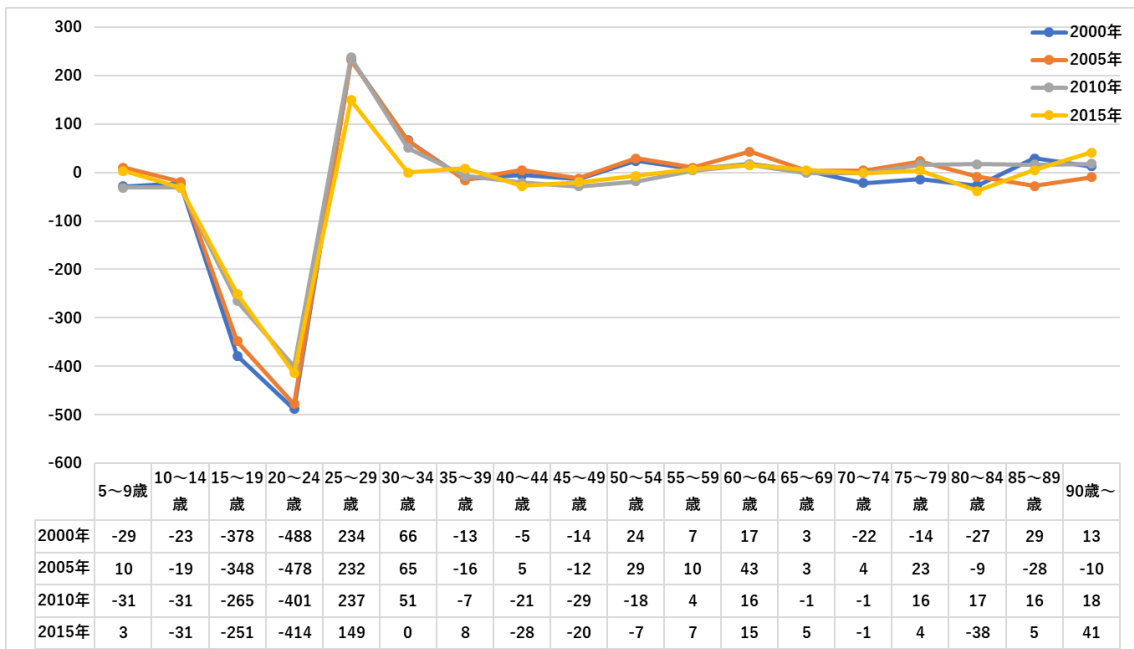
「進学や就職等に伴い移動が発生、少子化に伴い増減幅は縮小傾向」

年齢階層別の人口移動の状況（男）2021年



出典：RESAS 地域経済分析システム

年齢階層別の人口移動の状況（女）2021年

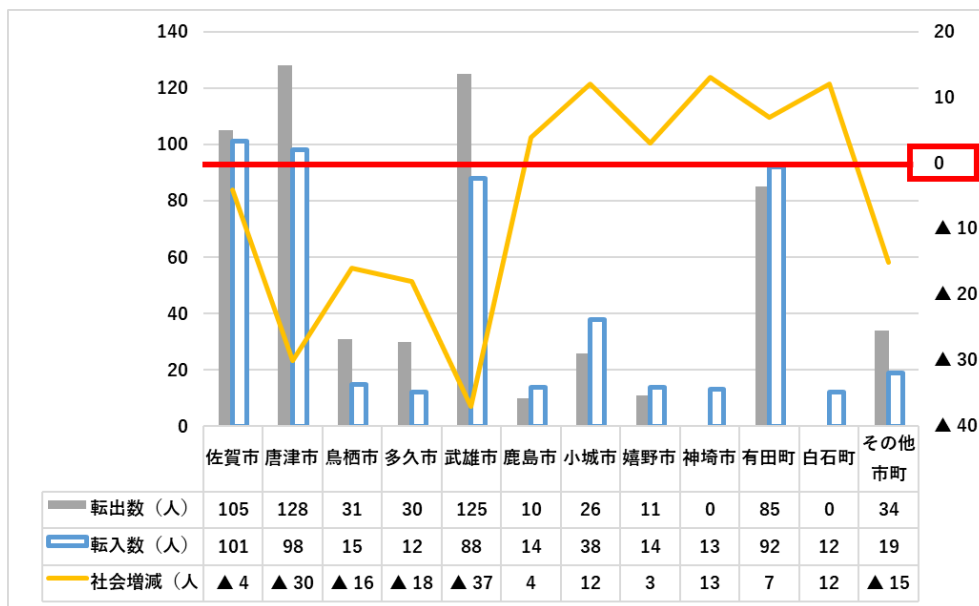


出典：RESAS 地域経済分析システム

06 地域別の人口移動

「転出超過(唐津市、武雄市など)、転入超過(神崎市、小城市、白石町など)」

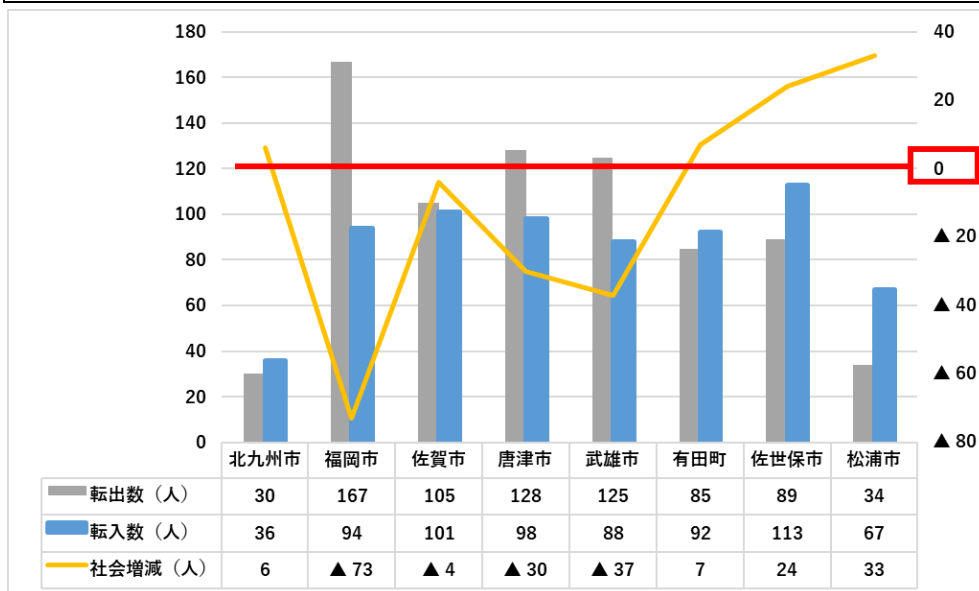
伊万里市から佐賀県内市町への人口移動の状況 2021年



出典：RESAS 地域経済分析システム

「転出超過(福岡市、唐津市など)、転入超過(佐世保市、松浦市など)」

伊万里市から近隣市町への人口移動の状況(移動数が多い市町) 2021年

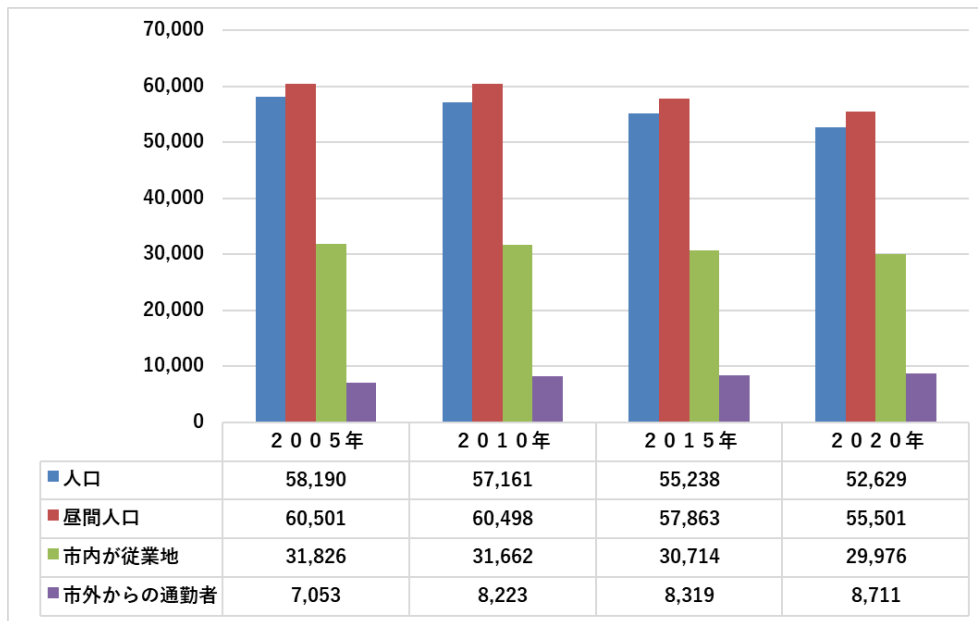


出典：RESAS 地域経済分析システム

07 昼間人口

「市外からの通勤者が増加傾向」

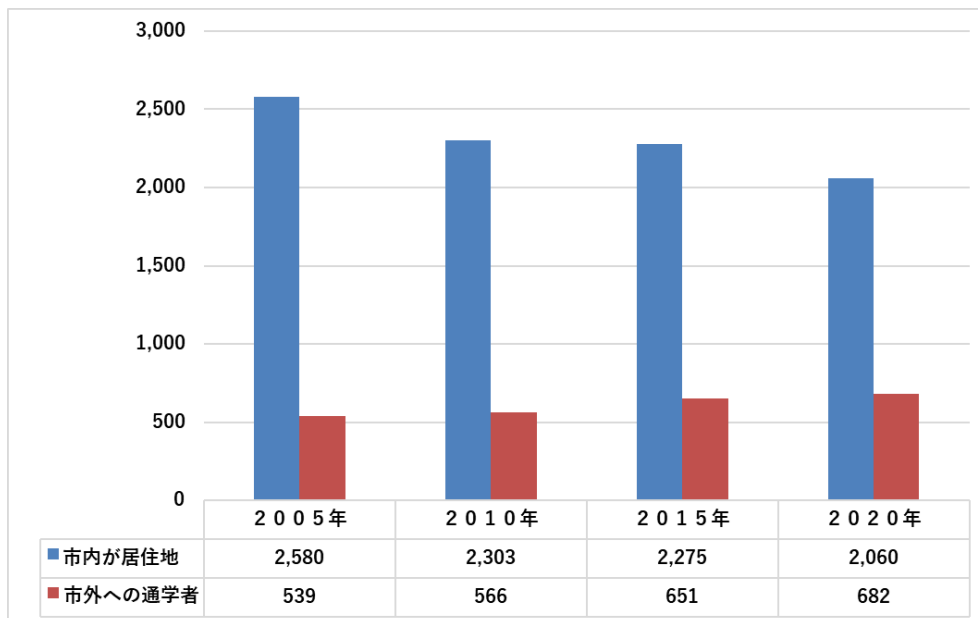
昼間人口の状況



出典：国勢調査

「市外への通学者が増加傾向」

15歳以上の学生（市内居住）と通学の状況

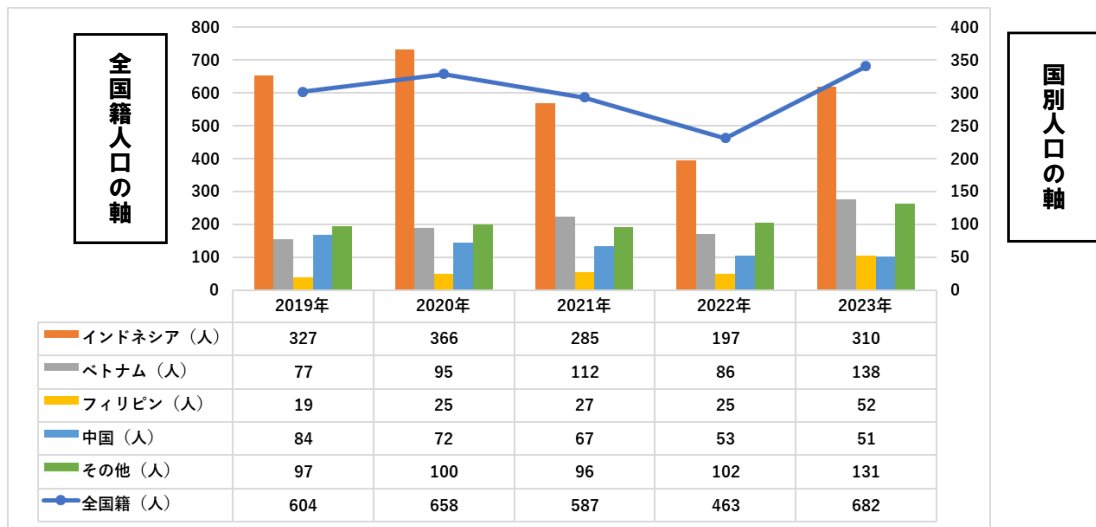


出典：国勢調査

08 外国人の人口

「コロナ禍で落ち込んだが、増加傾向(外国人の人口は県内4位)」

外国人人口の推移



出典：統計伊万里

09 結婚

「有配偶率が男性は全国平均より高く、女性は全国・佐賀県平均より高い」

有配偶者の割合

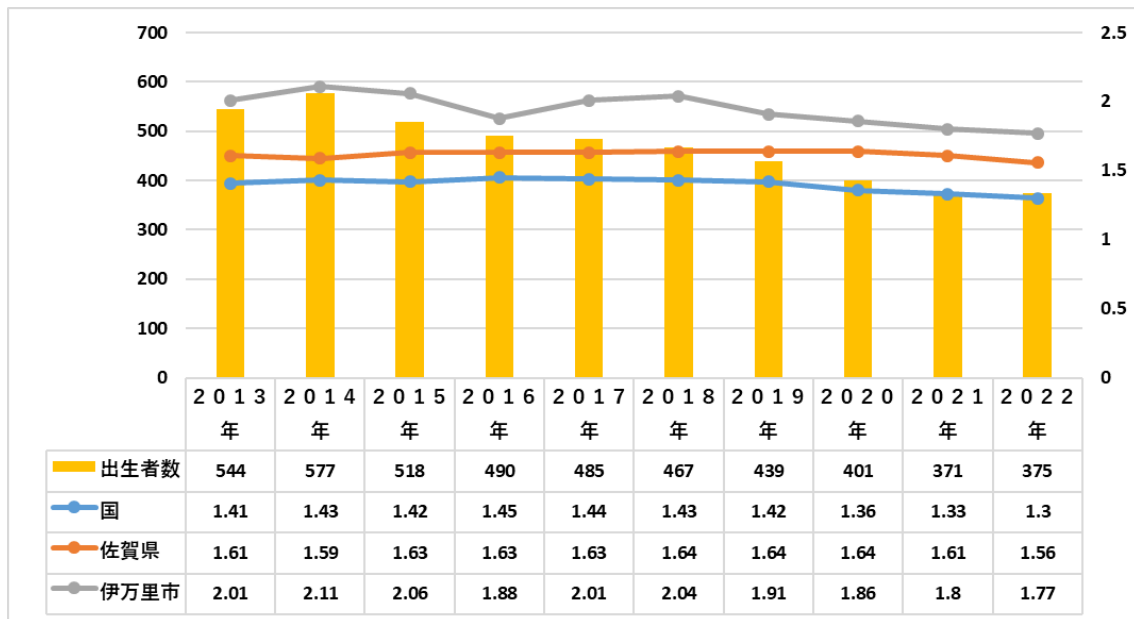
性別	区分	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
男性	全国	0.2%	4.5%	26.3%	50.8%	62.5%	66.9%	67.4%
	佐賀県	0.5%	8.9%	33.5%	55.6%	67.5%	72.4%	74.9%
	伊万里市	0.4%	9.2%	32.9%	53.9%	65.8%	70.2%	73.4%
女性	全国	0.3%	7.1%	35.5%	60.7%	70.3%	72.6%	71.9%
	佐賀県	0.5%	11.5%	42.2%	66.8%	77.1%	80.9%	83.0%
	伊万里市	0.9%	17.4%	48.4%	71.4%	79.9%	82.4%	84.8%

出典：国勢調査

10 出産

「合計特殊出生率は低下傾向だが、国・県より高い」

合計特殊出生率の推移



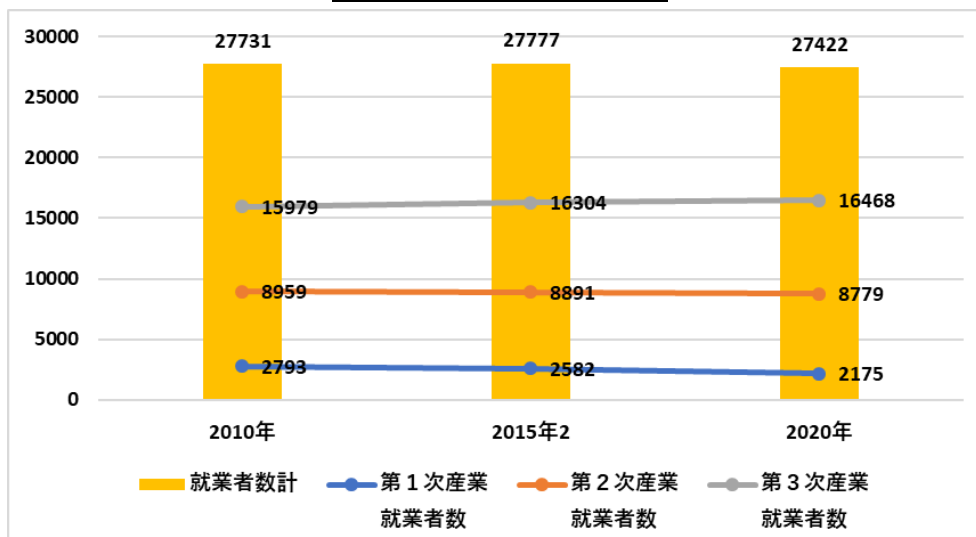
出典：国勢調査（※2022年は住民基本台帳）

(2) 産業の動向分析

01 産業構造

「伊万里市の産業は第3次産業の就業者が最も多い」

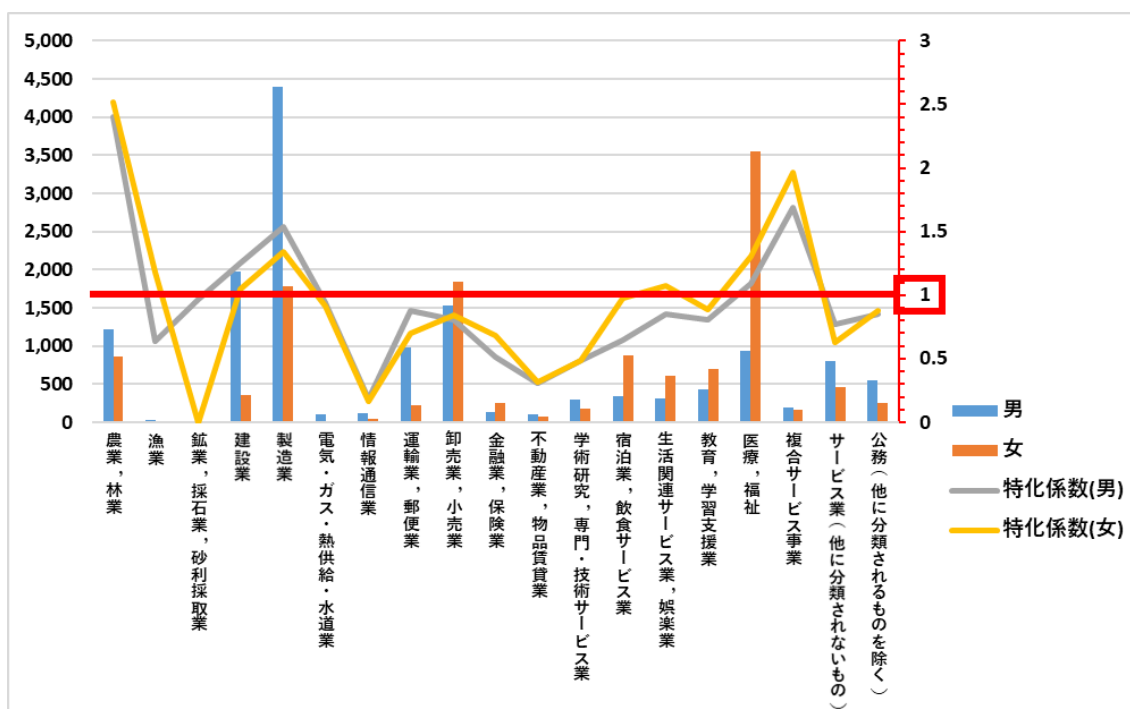
産業構造別就業者の推移



出典：国勢調査

「男性は製造業、女性は医療福祉の就業者が多い傾向」

産業別就業者の状況 2020年

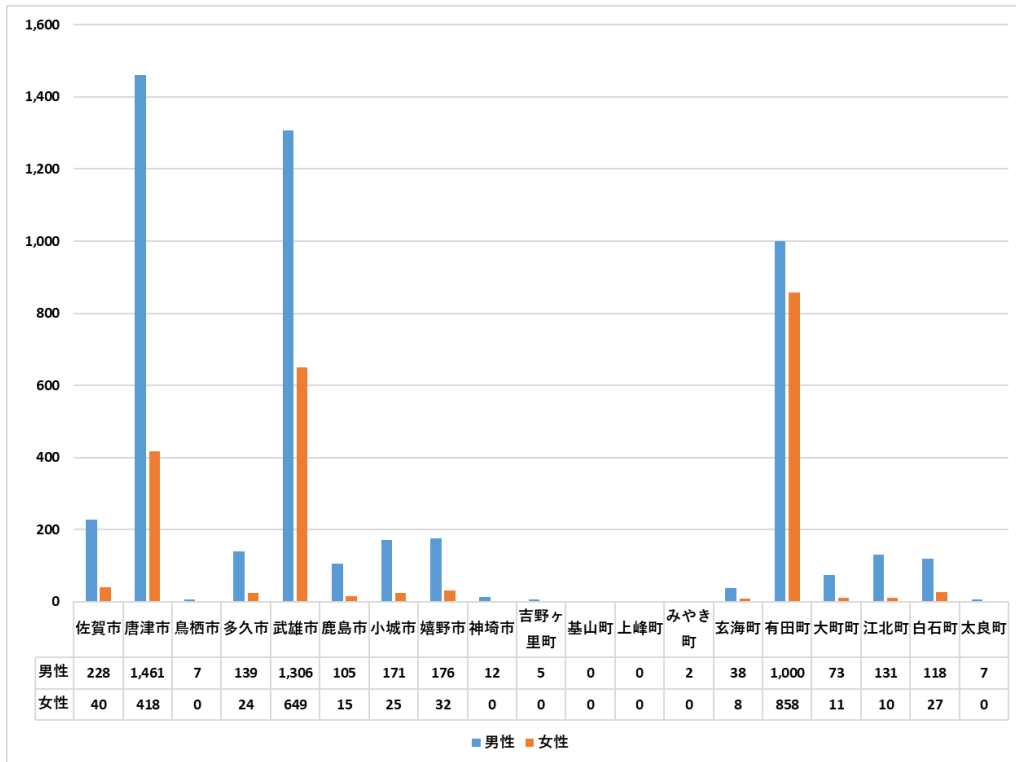


出典：国勢調査

02 労働力

「唐津市、武雄市、有田町から就業者が多い傾向」

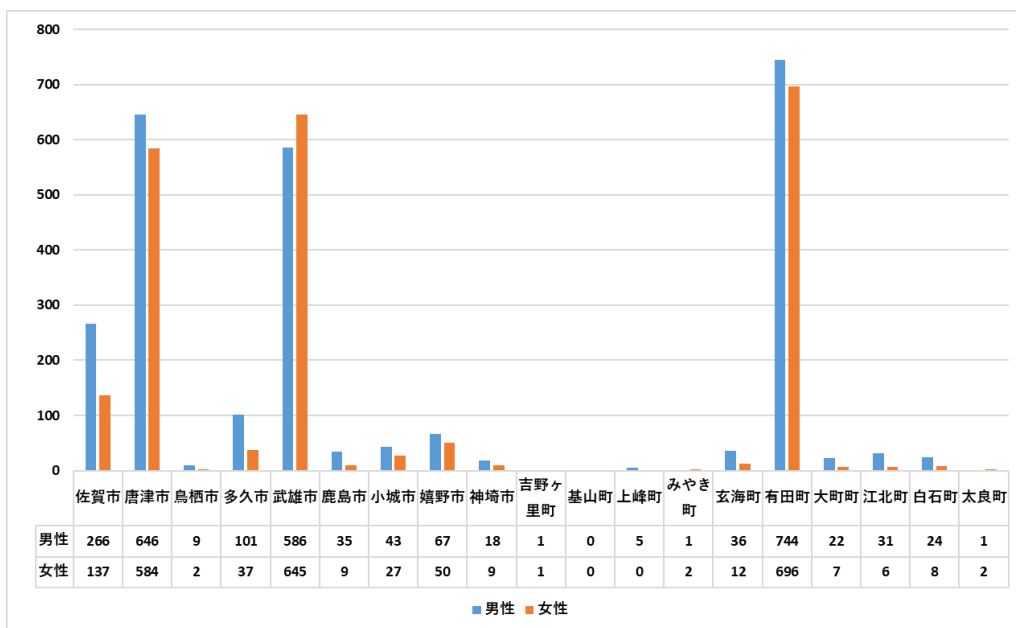
市外からの就業者の状況 2020年



出典：国勢調査

「有田町、唐津市、武雄市への就業者が多い傾向」

市外への就業者の状況 2020年



出典：国勢調査

3 人口の将来展望

(1) 将来人口の推計

01 推計方法の概要

①人口変動の3要素

人口変動に影響を与える要素には、出生、死亡、移動の3つの要素が存在します。

そのうち移動は、転入と転出に分けることができます。

将来人口は、これらの3要素についてそれぞれ将来の仮定値を置き、推計を行います。

②将来人口推計を行う方法

将来人口推計を行うにあたっては、「コーホート要因法 (cohort component method)」を基礎として推計します。

「コーホート (cohort)」とは、同年又は同期間に生まれた集団のことを指し、「同時出生集団」、または「同時経験集団」と訳されます。「コーホート要因法」とは、その集団ごとに時間の経過とともに変化する要素、つまり出生、死亡、移動を軸として人口をとらえる方法であり、ある年の男女・年齢別の人口を基準として、出生、死亡、移動に関する将来の仮定値を当てはめて将来人口を推計します。

【将来の仮定値】

人口変動の三要素	仮定値	説明
出生	子ども女性比	将来の0～4歳人口を推計するために出生率の代替として必要となる仮定値。15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比。
	出生性比	子ども女性比により将来の0～4歳人口が推計されるが、これを男女別に振り分けるために必要となる仮定値。
死亡	生存率	ある年齢x歳の人口が、5年後にx+5歳になるまで死亡しない確率。1－死亡率。
移動	純移動率	転出入による人口の増減率。ある期間の男女年齢別純移動数を分子、当該期間の男女年齢別人口を分母として算出したもの。

02 将来人口推計の概要

前述の方法に基づき、伊万里市の将来人口を推計します。

この推計は、令和2年（2020年）の国勢調査の結果を基準人口とし、令和42年（2060年）までを対象期間として行いました。

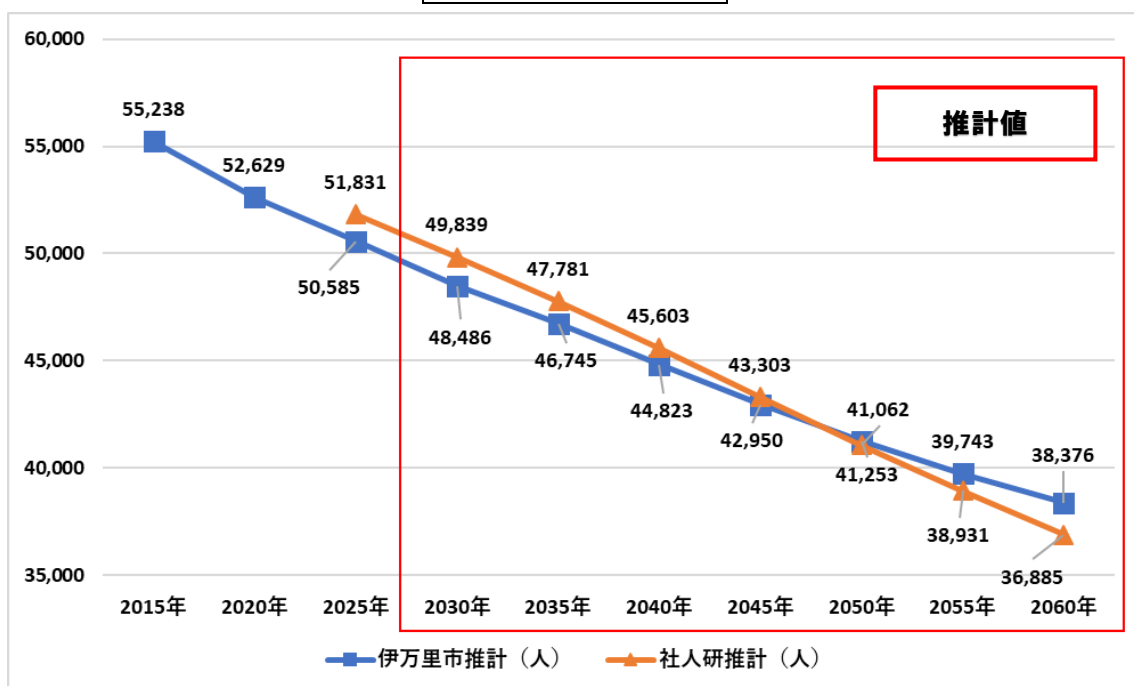
推計にあたっては、以下の仮定値を条件としています。

【将来の仮定値】

子ども女性比	平成27年（2015年）の国勢調査の結果を設定。
純移動率	令和2年（2020年）から2030年までの純移動率にそれぞれ2分の1を乗じ、それ以降は純移動率を収束させる（純移動率を0とする）こととして設定。※子育て、移住政策等の効果を期待。
出生性比	平成27年（2015年）の国勢調査の結果をもとに、合計特殊出生率については、平成28年から令和2年までの5年間の実績平均（1.92）を設定。
生存率	平成27年（2015年）の国勢調査の結果を設定。

「将来の仮定値を実現可能な範囲で設定した場合、人口は緩やかに減少」

伊万里市将来人口推計



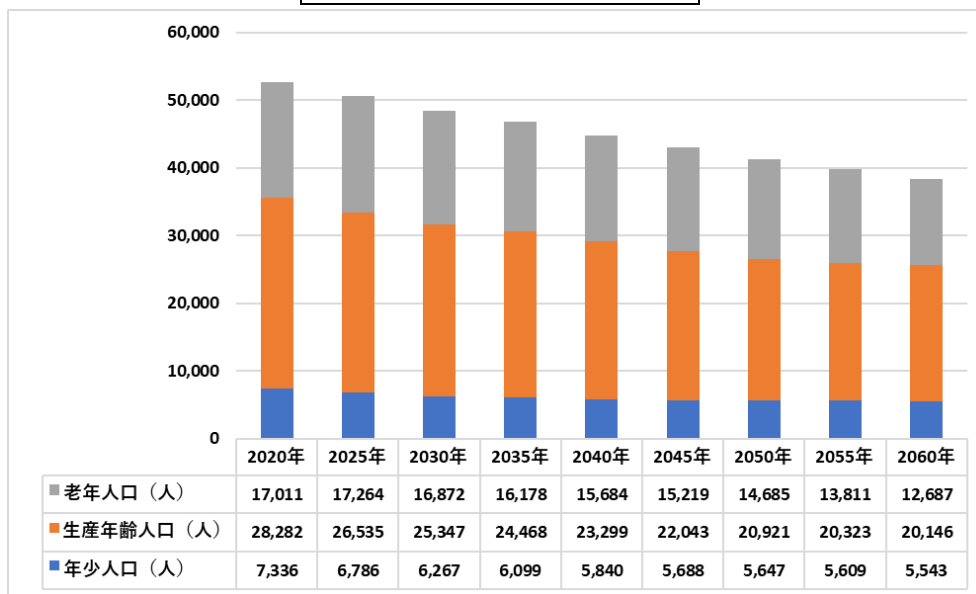
目指すべき将来人口 2060年 40,000人

※社人研の推計（36,885人）を3,115人上回る。

03 将来人口推計の分析

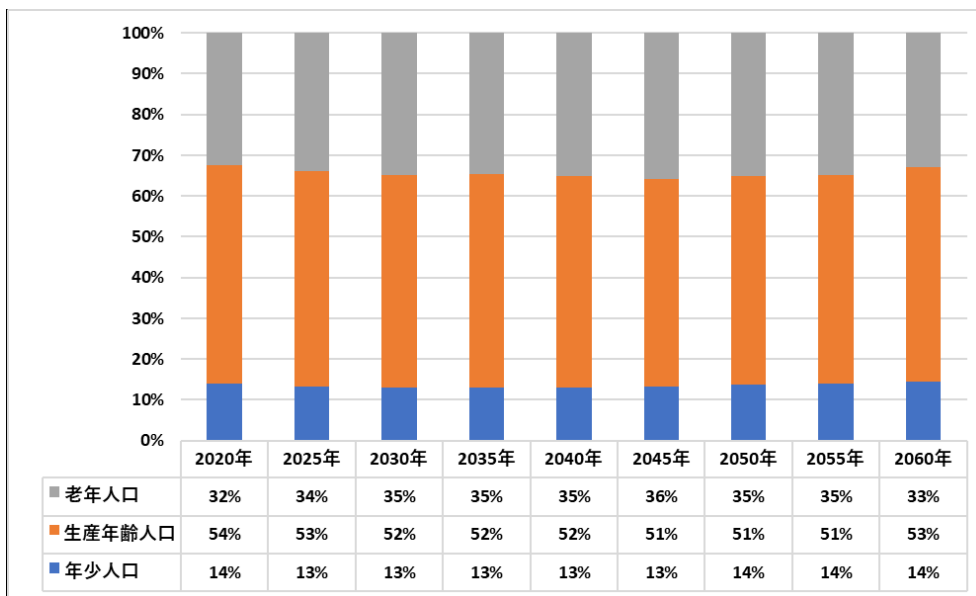
「老年人口及び生産年齢人口の減少幅と比べ年少人口の減少幅は小さい」

年齢 3 区分別の将来人口推計



「2040年を境に老年人口の割合が縮小、生産年齢人口及び年少人口の割合が拡大」

年齢 3 区分別の割合推計



(2) 将来展望と方向性

01 人口減少・少子化問題に取り組む意義

伊万里市の将来人口については、前述のとおり、少子化、高齢化の進行により更なる人口減少が見込まれます。

将来にわたり、市民の安全・安心な生活を支えていくためには、市として対策を講じ、年少人口、生産年齢人口の減少を可能な限り抑制していく必要があります。

そのためには、本市が目指すべき将来の展望を市民と共有し、その実現に向けて長期的戦略を立て、施策を展開していくことが重要です。

02 伊万里市が目指すべき方向性

前項で分析した将来人口推計の特徴等をもとに、「総人口」、「出生（自然増減）」「社会動態（社会増減）」の3つの視点から特徴と課題を整理し、市が目指すべき将来の方向性（基本目標）を以下のとおり掲げます。

項目	特徴・課題
総人口	<ul style="list-style-type: none">●総人口は、本市に有利な出生及び社会動態に関する将来の仮定値を用いた場合でも、緩やかに減少することが見込まれます。●2040年までは高齢人口の割合は増加傾向にありますが、その後は高齢人口の割合が減少し、生産年齢人口及び年少人口の割合が増加することが見込まれます。
出生 （自然増減）	<ul style="list-style-type: none">●合計特殊出生率は減少傾向にあるものの、全国や佐賀県と比較しても高い値で推移しています。●本市の有配偶率は男女ともに全国と比較して高く、女性は佐賀県と比較しても高い状況です。●これらの傾向をさらに促進するためにも、子どもの成長や子育て世代を応援する施策を推進する必要があります。
社会動態 （社会増減）	<ul style="list-style-type: none">●現在（令和5年度時点）の本市の産業分野においては、特に製造業の新規設備投資に伴う大規模場な雇用拡大が進んでおり、就職に伴う市内移住が促進されています。●また、テレワーク等の浸透により出身地や魅力的な地域への移住の機運が高まっています。●一方で、子どもの成長や住居の購入、転職等に伴い、教育環境や地理的条件など様々な生活環境を考慮し、一定の人数が市外へ転出しています。●このような現状を踏まえ、できる限り市内への移住や定住を促進するとともに、市外への転出の抑制に繋がる施策を推進する必要があります。

参考：デジタル田園都市構想実現に向けた第3期伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標

基本目標1 産業振興により「活気あふれるまち」をつくる

(国の基本目標 地方に仕事をつくる)

若い世代や女性が本市で働きたいと思えるような魅力的な雇用環境を創出することで、高校等の卒業後の就職に伴う転出を抑制するとともに、地元就職やUターンを促進し、若年層の突出した転出超過の是正を図ります。また、地域特性や地域資源を生かし「稼ぐ力」を高めることで、誰もが安心して働くことのできる「活気あふれるまち」をつくります。

基本目標2 地域資源を生かし「行きたいまち」をつくる

(国の基本目標 人の流れをつくる)

自然豊かな住環境や食の魅力あふれる本市への移住などUIターンを促進するとともに、福岡都市圏との至近性や伝統を受け継ぐ伊万里焼などの豊富な観光資源を活用し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図り、様々な機会を利用して効果的な情報発信をしながら、ひとが集まる「行きたいまち」をつくります。

基本目標3 市民みんなで「子育てしやすいまち」をつくる

(国の基本目標 結婚・出産・子育ての希望をかなえる)

少子化や子育て世代の転出による人口減少を抑制するため、結婚を望む人や子育て世代の希望をかなえ、将来に不安を感じることなく安心して結婚、出産、子育てができる社会環境の実現を図るとともに、時代に応じた質の高い教育環境を整備するなど、「子育てしやすいまち」をつくります。

基本目標4 時代に合った都市づくりで「安心して住みたいまち」をつくる

(国の基本目標 魅力的な地域をつくる)

人口の減少が進む中、集落機能を維持しながら地域の活性化を図り、誰もが安全で安心して暮らし続けることができるよう、地域住民が主体となった地域づくりの取組を支援するとともに、伊万里市版SDGsを推進（誰一人取り残さない社会の実現）し、本市の特性を生かした地域と地域の連携等を進め、「安心して住みたいまち」をつくります。